



特定非営利活動法人 **アジア太平洋資料センター (PARC)**

2010 年度 活動報告書

◆2010 年度をふりかえって	1
◆活動報告	
調査研究・ネットワーク「連帯経済」	2
政策提言・キャンペーン	4
P A R C自由学校	5
雑誌『オルタ』	8
情報発信・ウェブサイト	9
オーディオ・ヴィジュアル（AV）	10
◆組 織	12
◆会計報告	14
◆賛同・主催・参加イベント	16
◆理事/事務局スタッフ紹介	17

2010 年度をふりかえって

1. はじめに

2010 年度は、アジア太平洋資料センター (PARC) とパルシック (PARC Inter-Peoples' Cooperation : PARCIC) に組織分割をして 3 年目を迎える年でした。

この 1 年をふりかえると、国内では民主党政権誕生後、沖縄普天間基地移転問題や T P P (環太平洋戦略的経済連携協定) への参加表明など、人びとの暮らしや平和、貧困削減とは逆行する流れがつかれつつあります。また国際的には金融恐慌が引き金となった世界同時不況の影響がいまだ人びとの生活や雇用に深刻な影響を与え続けています。

そんな状況の中、2010 年度の P A R C は「人びとの手によるオルタナティブな世界」という理念のもと、さまざまな活動・提言を行なってきました。

2. アクション

2003 年以来、PARC は「連帯経済」を活動の中心にすえさまざまな取り組みを行なってきました。2009 年度は東京で開催した「アジア連帯経済フォーラム 2009」の事務局団体として参画しました。フォーラムには、社会的企業やコミュニティ事業、フェアトレード、市民金融、環境・福祉などにかかわる実践者・研究者・NGO/NPO が集い、互いの経験を学び合う機会となりました (詳細は P2 参照)。

フォーラムを通して、新自由主義のもとで日本とアジア、世界の人びとの生活が私たちが破壊されてきたという事実を知ると同時に、オルタナティブな社会を実現したいと願う人びとの新しい運動や事業が生まれていることを実感しました。また日本国内・アジアの豊かな経験を「連帯経済」として結んでいくことの重要性を参加者がともに確認する機会となりました。

3. 日本と世界の貧困を克服するための視点



2009 年は連帯経済の取り組みを通して、また日本国内の貧困が深刻化する状況を通して、もはや貧困は途上国の問題ではなく、一国内の個別の政策転換だけでは解決するものではないと強く認識した 1 年でした。日本においては仕事や食、地域での人間関係など具体的な生活の場面で信頼や生きる権利を回復し、事業や運動、貧困をなくすための政策提言を行なうことがまず必要です。そしてそのことを通して、同時にアジアや世界の人びととともに貧困を克服していけるような視点や活動を、現在の PARC は模索しています。

こうした視点に立ち、2009 年度は国内外の貧困に対する具体的な取り組みを行ないました。具体的には、PARC 自由学校にて「活動家一丁あがり」講座を開講、20-30 代を対象に「労働と貧困」をテーマに参加型・実践型のクラスとして実施しました。また 2010 年 2 月から「貧困」をテーマにしたオーディオ・ヴィジュアル (AV) 作品の制作に着手、日本と世界で貧困が生み出されてきた構造や背景を伝えることに取り組んでいます。新たな試みとして視聴者となる大学生自身が取材をし、「貧困」問題に気づき、考えていくという手法をとっています。

4. 出会い、学びあう関係づくりのために

上記すべてと関連しますが、2009 年度に重点的に取り組んできたことは、PARC の長年の活動の成果として蓄積された国内外の情報や経験、人と人とのつながりを再発見し、新たな活動を生み出す力にしていこうことでした。連帯経済の実践者・研究者とのネットワークはもちろんのこと、これまでの調査研究活動やオルタ、自由学校、AV などの部門間の連携や情報交換を活発にし、PARC の活動全体をより多くの人たちへの発信が重要だと考えています。

理事会・事務局も世代交代する中で、会員の皆さんとの顔の見える関係づくりに、さらに力を注ぎたいと考えています。会員の皆さんがもつ経験や考え、ネットワークを持ち寄って学びあえるような具体的な活動やしきみづくりも提案していきます。

日本で、世界で、私たちのめざすオルタナティブへの一歩を踏み出していくために、これまで以上のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

2009 年度は PARC が連帯経済を日本国内そしてアジアレベルで推進していくにあたり大きな 1 年となりました。連帯経済とは、暴力的な市場経済によって貧困や雇用不安、地域経済の沈下、環境そして紛争などが深刻化する中で、

それに対する対抗あるいはオルタナティブとして実践されている、人と人との信頼関係に根ざす小さな経済の総称です。具体的には、社会的企業や社会的金融、農漁村での協同調査研究PCネットワークの活動など、連帯経済がアジアの多岐にわたるテーマで企画したところ、多くの参加者が得られました。PARC 会員や受講生の方々も連帯経済に興味を持っていただき多くの方が参加してくださいました。

2007年10月、フィリピン・マニラにてアジア初の「連帯経済フォーラム」が開催され、PARC も他団体とともに参加しました。その2年後、2009年には東京にて第2回フォーラム開催が決まり、今年度はまさにフォーラムの実現に向けてPARCとして全面的に取り組む年となりました。日本国内では、生協や市民金融、NGO、ワーカーズなどの実践団体からなるフォーラム実行委員会が組織され、PARC も実行委員団体として参加、また事務局団体としてフォーラム開催に向けた諸準備を進めました。

1. PARC 総会シンポジウム 「新自由主義の終わり」と連帯経済

2009年6月7日、PARCの会員総会にあわせる形で、連帯経済をテーマとしたシンポジウム「新自由主義の終わり」と連帯経済」を主催し、200名もの参加者がありました。ここでは、新自由主義のもとでの市場経済が、国内外の人びとの暮らしを破壊してきた実態とその分析を行なった上で、連帯経済の実践と考え方を議論しました。日本では「連帯経済」という言葉自体が浸透していない中で、フォーラム開催に向けた第一歩を踏み出した場であったと同時に、PARC会員の皆様にも連帯経済の取り組みを知ってもらえる場となりました。



シンポジウム「新自由主義の終わり」と連帯経済」(2009年6月7日、総評会館にて)。パネリストは右から北沢洋子さん、アンドリュウ・デウットさん、湯浅誠さん、向田映子さん

2. アジア連帯経済フォーラムに向けた企画

アジア連帯経済フォーラム 2009 実行委員会では、11月の開催に向けて、連帯経済を広く知っていただくために

学習会や現場視察など、誰でも参加できる場を企画してきました(下記参照)。限られた時間の中でしたが、社会的企業や農の現場と女性たちの起業、貧困と社会的排除など多岐にわたるテーマで企画したところ、多くの参加者が得られました。PARC 会員や受講生の方々も連帯経済に興味を持っていただき多くの方が参加してくださいました。

◆アジア連帯経済フォーラムに向けた事前企画

6/26	◆連続学習会『いのちのセーフティネットと連帯経済』
7/31	◆連続学習会『ラテンアメリカの連帯経済—参加型予算・労働者自主管理企業・フェアトレードの実践から』
8/28	◆連続学習会『社会的企業は市場経済を変革できるのか? —ソーシャル・ビジネス・コミュニティビジネスの現在』
9/27	◆連続学習会『地域の力、人の力 —食と農の現場から語る「連帯経済」』
10/4	●学びの旅『有機農業がちなぐ地域 —埼玉県小川町・霜里農場を訪ねる〜』
10/15	●学びの旅『貧困の現場から —NPO ほっとポットの地域で生きるための支援〜』

3. アジアへの学びの旅「韓国」

2007年の第1回アジア連帯経済フォーラムの準備段階で、自分たちの身近な場・地域における連帯経済の実践事例を探し、出会っていくプロセスとして「学びの旅」という手法が提起されました。出会いと発見、そしてネットワーク化を行なうために重要な取り組みです。

フォーラム実行委員会では、開催に向けてすでに「学びの旅」を実施してきましたが、2009年度は国内だけでなく韓国における連帯経済を知る旅を企画、PARCからも2名の事務局スタッフが参加しました(2009年9月2日〜7日)。

連帯経済のネットワークを進めるにあたり、日本、韓国、中国、台湾、香港など東アジア地域の連携は重要です。今回の学びの旅では、韓国で2006年に法制化された「社会的企業」の実態と課題を知ると同時に、それらを支える基盤としての中間支援組織を訪問しました。韓国で社会的企業が興隆する背景には、97年のIMF危機以降に広がった貧困に対する政府の対応と、民主化闘争以来、市民社会に培われてきた草根の運動やNGOなどの努力がありました。すでに日韓では生協やワーカーズ・コレクティブ、有機農業を推進する運動など、多様な分野での実践交流は行なわれており、それらを「連帯経済(韓国では「社会的経済」という呼称でより浸透しています)」として、アジアレベルでのネットワークをしていくことが、フォーラム実行委員会としての課題でした。実際には、この訪問により5団体のフォーラム参加が実現しました。

4. アジア連帯経済フォーラム 2009

これまで述べたような準備プロセスを経て、11月7日～10日、東京・国連大学、青山学院大学、東京ウィメンズプラザにて、アジア連帯経済フォーラムを開催しました。フォーラムにはアジア各国を中心に EU、カナダなどから海外ゲストが40名参加しました。また日本国内からは約400名以上の参加者があり、連帯経済やオルタナティブな経済への関心の高さがうかがえました。

アジア連帯経済フォーラムの最初の2日間は国際会議（全体会・分科会）、その後の3日目は国内の現場を海外ゲストとともに訪問する「学びの旅」を企画し、実施しました。



全体会では「グローバルに広がる連帯経済」「アジアにおける多様な連帯経済の実践」という大きな枠組みを報告・議論した後、「社会的企業」「社会的金融」など連帯経済についての重要な要素についてのセッションを設けました。また2日目の分科会では、「社会的金融」「フェアトレード」「農業と地域」「福祉・医療サービス」「グローバル経済の規制と国際連帯税」というテーマに分かれ活発な議論を交わしました。

さらに2日目の全体会では、連帯経済を促進するために必要な評価や達成度の基準についてのセッションを持ったうえで、フォーラムの一つの成果として参加者による「コンセンサス文書」が提起され、会場との議論を経て採択されました。このコンセンサス文書は、フォーラム参加者がそれぞれの国・地域に持ち帰り、連帯経済の概念やアジアの実践をより豊富化して具体的に広げるための助けとなるよう、連帯経済の定義やその要素、私たちが今後連帯経済を促進していくためのビジョンについてまとめたものです（参照ウェブ*****）。

続く3日目には、日本国内の「学びの旅」として、横浜市、厚木市、埼玉県小川町の3つの現場を訪問しました。横浜市では市民による社会的企業や女性たちの起業、ホームレス支援の現場を訪問しました。厚木市では多様な NPO

やワーカーズ・コレクティブがネットワークをし医療や福祉、子育てなど地域でのセーフティネットを築いている事例を学びました。さらに小川町では、日本における有機農業の先駆的な霜里農場とその周辺地域を訪れ、有機農業と地域での仕事づくり、地域におけるものや人の循環について学びました。

5. アジア連帯経済フォーラムの成果 2011年マレーシア会議に向けて

アジア連帯経済フォーラムは、日本国内外の連帯経済の実践や可能性について、参加者が気づき経験を学びあう場として大きな成果をあげました。アジアでも日本でも、そして他地域でも、金融恐慌を発端とする世界同時不況の影響下にいまだあり、また長期的な視点でいえばグローバル経済による資源の収奪や格差、貧困という問題に直面しています。「農民が食べられない」という状況が、カナダやタイ、インドネシア、そして日本から次々と報告されたり、貧困層が社会的にも排除されているという事例が報告されるなど、アジアに共通する課題が浮き彫りにされました。

同時に、各地の実践事例からの学びも多くありました。日本の有機農業や「地産地消」という考え方、また生協など具体的なしくみや、農村における小さなビジネスの起業例などは、アジアからの参加者の大きな刺激となったという感想を聞きました。あるいは、ヨーロッパで推進されてきた社会的金融の取り組みやネットワークは、今後のアジアにとって参考にする内容が多くありました。

こうした相互交流の機会を経て、より具体的な活動をそれぞれが自らの現場で広げ、2年後の2011年、マレーシアで開催される第3回アジア連帯経済フォーラムに持ち寄ることがフォーラムの最終日に確認されました。日本で初めて「連帯経済」と名をつけた国際会議が開催されたことの意義は大きく、またそこに全面的に参画できたことは、PARCにとっても、これまでのPARCの蓄積を改めて見直し、出会っていくプロセスとしても大きな成果でした。今後は、国内外の事例をさらに深めたり、理論的な考察を行なうなどして、次回のマレーシア会議に参加していく予定です。会員の皆様にも活動を呼びかけていきますので、ぜひ引き続きのご参加・企画協力などをお願いいたします。

政策提言・キャンペーン

債務問題の解決への取り組み

2008年度、北海道洞爺湖にて開催されたG8サミットにて、PARCは他団体と協力し、途上国の債務に関するワークショップを開催しました。

2009年度は債務問題に関して、エクアドルにて債務問題の解決に取り組み「ジュビリー・エクアドル」のデルファ・マンティージャさんを迎え、講演会と院内集会を開催しました（「債務、貧困、気候変動—変革が進む南米エクアドルは地球規模の課題にどう取り組むのか」2010年3月19日開催。他団体との共催）。

南米のエクアドル共和国では2007年1月に発足したラファエル・コレア政権のもと、さまざまな改革を進めてきました。マンタ米軍基地の継続使用の拒否、水や食料へのアクセスを基本的人権と定めた新憲法の制定、先住民を苦しめ環境を破壊してきたアマゾンにおける石油開発の中止、世界銀行・IMFを通じた「先進国」や多国籍企業による経済的支配からの離脱、従来の多国籍金融機関とは異なる地域発展と統合のための「南の銀行」への参加など、人口1300万の小さな国の人びとの挑戦は、地球の裏側の日本をはじめ世界各地で注目されています。

なかでも2008年12月にコレア大統領が発表した対外債務の一部支払い停止は、歴史的・政治的な結果として貧困を強制されてきた「途上国」と呼ばれる国の人々を勇気づけました。この債務の支払停止は、エクアドルに課せられた債務が、「貸し手」である豊かな国や多国籍金融機関の都合で貸し付けられたり、借り手の側の国のごく一部の人（たとえば独裁者）にしか恩恵をもたらさなかった融資によって作られた「不公正な債務」であるという政府の監査委員会の報告書に基づいたものです。「貸した以上に引き剥がす」という債務問題が解決されない限り、エクアドルをはじめとする世界の貧困問題は解決されません。日本はいまもエクアドル債務の債権国のひとつであるという意味でも、その責任は大きいといえます。

講演会には約50名の参加者があり、債務・貧困、気候変動、環境破壊など地球規模の課題について、一進一退を繰り返しながら変革を進めてきた南米エクアドルで活動する社会運動はどう考え、いかに取り組んできたのかを議論しました。また院内集会も開催し、日本の政策に対する働きかけも行ないました。

イスラエルのパレスチナ占領に対するアクション

「スピークアウト for アクション：イスラエルを変えるために」

2008年12月27日に始まったイスラエルによるガザ侵攻に対し、日本でもさまざまな抗議行動や集会、デモが行なわれました。PARCは2009年1月、「スピークアウト&デモ：イスラエルは占領とガザ侵攻をやめろ！」の実行委員団体として参加し、イスラエルの政策を変えるためのキャンペーンに取り組んできました。ガザへの侵攻で1300人あまりのパレスチナ人を殺りくしたイスラエル。長年パレスチナ占領を続け、パレスチナの消滅さえ目論んでいるように見えるこの国が根本的にその政策を改めない限り、この地における問題はいつまでも解決しないといえます。

同実行委員会では、2009年5月31日、「スピークアウト for アクション：イスラエルを変えるために」を実施、パレスチナ占領の実態と、イスラエルの政策転換を求める内容の全体会・分科会を行ないました。

◎シンポジウム

板垣雄三（東京経済大学名誉教授）/東澤靖（弁護士/明治学院大学法科大学院教授）/役重善洋（パレスチナの平和を考える会）
山崎久隆（たんぼぼ舎/劣化ウラン研究会）

◎分科会1

イスラエル製品/関連企業をボイコットする

【報告】役重善洋+事務局

◎分科会2 イスラエルの武器生産・取引・使用の実態を明らかにする 【講師】山崎久隆

◎分科会3 指導者たちの戦争犯罪を裁かせる
報告】寺中誠+事務局

◎分科会4 「歴史事実」の確認からはじめよう

【報告】実行委/【コメンテーター】板垣雄三

PARC自由学校



1) 企画内容

2009年度は計27クラスを企画し、受講生数は444人でした。残念ながら申込者が少なく、3クラスが不成立となりましたが、その理由としてはテーマや分野に絞った効果的な宣伝が弱かったこと、企画段階における詰めが弱かったこと、魅力的なタイトルをつけられなかったこと、昼間の時間帯のクラス対象者への宣伝がうまくできなかったこと（特に「モノが語る世界—暮らしから考えるグローバルイノベーション」）等であると考えられます。



2009年度自由学校のパンフレット（左）とリーフレット（右）

【人気の高かったクラス】

- 社会的起業！一わたしの思いをカタチにする
- エコを仕事にする
- オルタナティブ健康術
- 麻で始める自然生活
- 連帯のための哲学—生きる場のことばと実践から
- 映像で出会うアフリカ
- 東京で農業！

2009年度は、特に「農業」「エコ」「お金の廻り方」「地域の自立」「環境」「自己治癒力」「社会的起業」「国際協力」等をキーワードにしたクラスの人気の高い傾向が見られました。また現場訪問や活動体験の機会が多いクラスは受講生同士の交流や参加度・満足度も非常に高いものとなりました。グローバル資本主義経済によってもたらされた世界的な経済不況が生活の隅々まで直撃した結果、社会の制度疲労や雇用不安、日本社会に蔓延する“生きづらさ”を多くの人が実感し、「今こそ危機をチャンスにして、良い方向に社会を作っていきたい」「オルタナティブな実践に触れ、多種多様な生き方があるということを知りたい」「自分の身の回りから、足元から、

オルタナティブな生き方や暮らしを提案していくために自由学校で学びたい」と思い、受講する人が増えているのがここ数年の顕著な傾向です。

2) 特別講座「活動家一丁あがり」

2009年度は新たな取り組みとして、特別講座「社会にモノ言うはじめの一步～活動家一丁あがり」を10人の実行委員で企画・開講しました。約50人の申込があり、選考試験の結果、44名が受講する大人気のクラスとなりました。

この講座は、受講料を一回300円と格段に安く設定できたため、労働待遇が不安定である派遣社員、非正規社員や学生の受講も多く見られました。講座では、「労働と貧困」をテーマに、日本における貧困の現状や労働運動の歴史などを学ぶと同時に、記者会見の開き方、デモ申請やロビイングの仕方、講演会やイベントを開催する際の下準備から当日までの流れなど、社会にモノを言うために必要な具体的な方法を学びました。また、自身の労働環境や生き方・働き方の展望について報告・議論しあう中で、何かに挑戦し失敗すると取り返しがつかないばかりか、地の果てまで転げ落ちていってしまう日本社会の不寛容さが浮かび上がってきました。

講座では、各地で行なわれている様々な講演会やイベントの運営ボランティアをすることも組み込み、2010年3、4月には「卒業試験」として、受講生自らがイベント（講演会・デモなど）を企画・実施することも課しました。

その結果、受講生同士が自己の仕事環境や社会に蔓延する“貧困”や“生きづらさ”について日々話し合い、どうすればこの社会を変えていくことができるのかを共に考え、実際に一緒にはじめの一步を踏み出す、非常に参加型でアクティブなクラスとなりました。



卒業イベントに向けた「模擬記者会見」で企画したイベントを企画する受講生

27クラスを「ことばの学校」「世界の学校」「社会の学校」

「環境・暮らしの学校」「表現の学校」の5つのカテゴリーに分け、各ターゲット層に向けた宣伝を行ないました。例年同様、受講生やボランティア・インターン、他団体の方がたにご協力いただき、多くのイベントや講演会でパンフレットを配布・設置でき、さらにインターネットで広報することもできました。また、各クラスの講師の方がたにご協力いただき、ブログやホームページにて宣伝もしていただきました。3月～開講時期まで精力的に広報活動を行ったのが、受講生数を昨年の352人から444人に伸ばすことができた大きな要因の一つと考えられます。

4) 運営

2009年度は昨年度に引き続き「クラス運営の質を高める」ことを目標に取り組みました。教室の整備や機材管理等、基本的なインフラの改善の他、受講生・講師の交流の場（授業後の交流会）やメーリングリストの活用を呼びかけました。交流の場も居酒屋だけではなく、教室で持ち寄りパーティを行ない、静かにゆっくり話す場を提供したり、他イベントに共に参加したりと授業以外でも受講生と交流を持つよう務めました。しかしながら、8月の夏休み以降は、集積率が落ちるクラスもあり、例年の課題となっています。2010年度自由学校の運営では、1ヶ月間の夏休みに宿題を出したり、交流会を組むなどして9月から来やすい雰囲気を作っていく必要性を強く感じています。また、クラスごとに開設しているMLが事務局からの情報送信のみで一方通行になりがちだったので、次年度では、例えば講義の内容やまとめを受講生に分担でMLにて報告してもらうなどして、受講生同士がこれまで以上にML上でも情報交換や意見交換をできるようにしたいと思っています。

講義中については、講師から受講生への講義という形になりやすく、受講生同士がクラス内で話す機会がほとんど



ありません。2010年度は講義的要素の多い場を訪れるクラスは参加率が高く交流も活発ですが、クラスによっては質疑応答の後にグループディスカ

ッションの時間を入れるなどして、授業の時間内でも受講生と話し、つながれる空間を作っていきます。



5) 「自由学校春まつり」（修了イベント）の開催

1年間を締めくくる修了イベントとして昨年度から始めた「春の自由学校まつり」を、2009年度も開催しました(2010年3月7日 於・韓国YMCA 140名以上が参加)。受講生有志による実行委員会で作成から準備、当日の運営を行ない、クラスを超えた交流・発表の場として盛り上がりました。自由学校講座のみならず、自由学校の課外サークルである「DIOの場」からも3クラブが参加しました。

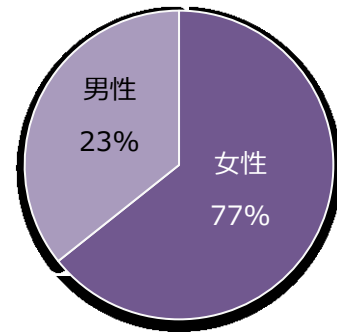
当日は各クラスの演奏・ダンス（アイヌのことばと文化を学ぼう、ラテンダンス、三線クラブ〈DIO〉等）、各クラスの一年を振り返っての発表（コンビ二調査団、英語で憲法9条を語ろう、エコを仕事にする、活動家一丁あがり等、高松田んぼの会〈DIO〉）、デモクラシーナウクラスによる自主制作ドキュメンタリー映画の上映に加えて、皆勤賞の発表や農業クラスによる野菜の直売、写真や資料の出展（写真教室、コモンズの旅・祝島、現代短歌クラブ〈DIO〉、テレビさようならクラブ〈DIO〉）、出店（映像で出会うアフリカ、社会的企業！）やバザーなど魅力的な出し物・出店が揃いました。

◆参考資料：PARC 自由学校 2009 年度受講生数

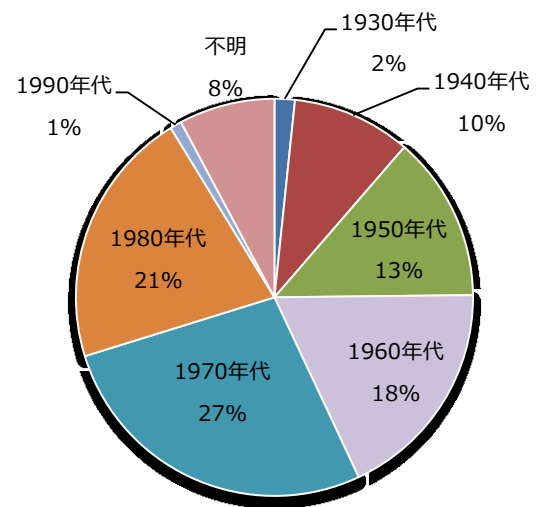
【ことばの学校】		
1	超カンタン！英語で憲法9条を語ろう	15
2	キムとルイスの『Democracy Now!』	15
3	ジェンスの英語で発信！	13
4	海外 NGO 資料から世界を読もう	10
5	武藤一羊の英文精読	9
6	アイヌのことばと文化を学ぼう	7
【世界の学校】		
7	ポスト・新自由主義の世界を読む	17
8	「食料危機」がやってくる!?—どうする私たちの食と農	不成立 7
9	一杯の紅茶から見る世界 【パルシク講座】	5
10	悩める中国—隣人との対話のために	不成立 3
11	モノが語る世界—暮らしから考えるグローバリゼーション	不成立 1
【社会の学校】		
12	社会的起業！—わたしの思いをカタチにする	33
13	連帯のための哲学—生きる場のことばと実践から	25
14	人の移動から見る近・現代史	19
15	コンビニ調査団！—便利な暮らしの後ろには…	5
【環境・暮らしの学校】		
16	江戸に学ぶエコー循環型社会とその思想	15
17	麻で始める自然生活	25
18	エコを仕事にする	31
19	オルタナティブ健康術	30
20	森・川・海—さあ、コモンズの旅へ *1	45
21	東京で農業	42
【表現の学校】		
22	金村修の写真教室	11
23	ニヤマ・カンテの西アフリカン・ダンス	不成立 1
24	藤巻裕治のキューバン・サルサダンス	7
【特別講座】		
25	活動家—丁あがり	44
合計 *2		423

*1：徳島 15名、祝島 13名、富士山麓 9名、北海道 8名
 *2：不成立になったクラスの申込者は受講生の合計に含まれていません

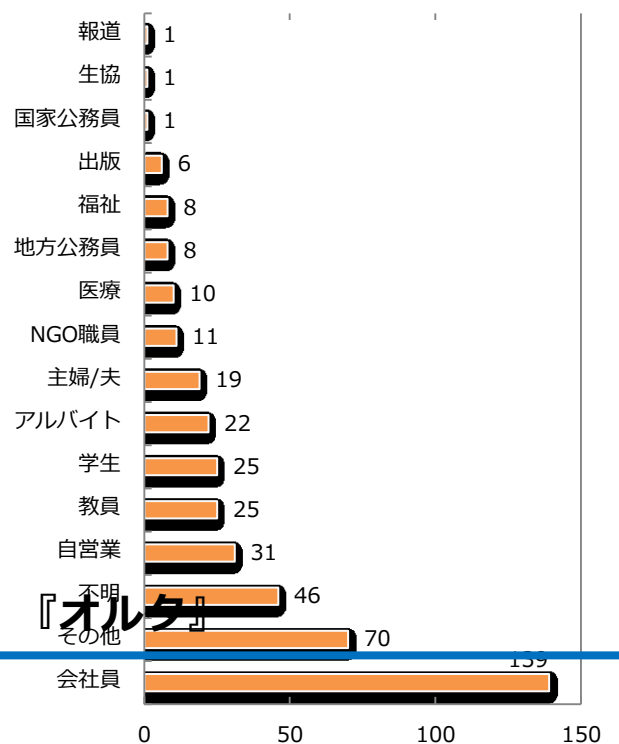
◆男女比



◆年代別



◆職業別



1)はじめに

雑誌『オルタ』は、2008年6月より月刊から隔月刊化し、誌面をリニューアルしてきました。隔月刊化によって、ページ数を増やしデザインも一新、またこれまで登用してこなかったような書き手の発掘に取り組んだことで、新たな読者を掘り起こすことができました。

しかしその一方で、2008年末から刊行日が大幅に遅れてしまい、2009年度末（2010年3月末）時点で約2か月の刊行の遅れは巻き戻せておりません。会員・購読者の皆様にはご心配・ご迷惑をおかけする結果となってしまいました。2010年度初めの時点で、刊行スケジュールが正常化する見込みですので、今後は定期発行を基本としたいと考えています。

PARCがこれまで発行してきた日本語の雑誌を振り返ると、『世界から』『季刊オルタ』『月刊オルタ』そして隔月刊になった現在の『オルタ』と、どの時代もPARCの活動と日本、アジアそして世界を切り結び、人びとの運動や多様な生き方を伝え、新たな社会構想に向けての提言することをコンセプトにしてきました。

しかし一方で、多くの雑誌媒体の休刊・廃刊に表されているように日本の出版状況全体が厳しくなる中で、また日本社会全体の思想・言論状況が「内向き」になる中で、『オルタ』がどのような人たちに何を伝えていくのかということも問われています。PARCにとって、『オルタ』は会員の皆さん（特に首都圏以外の会員の方）と価値感や情報を共有できる重要な媒体と位置づけています。また、会員以外の一般読者に対しては、PARCの活動や理念をより多くの人に知ってもらうためのメディアであり、広い意味での社会運動を広げるための媒体です。理事会・事務局では2010年度に会員の皆さんと一緒に、『オルタ』のあり方を議論できる場（具体的には2010年度の会員総会）をつくり、ご意見・ご提案をいただきたいと考えています。

2) 2009年度の特集内容

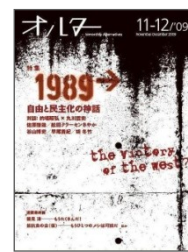
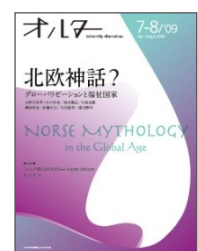
<新自由主義の崩壊とオルタナティブ>

ネオリベラリズム～カジノ資本主義がもたらした、グローバルな危機と、それに対するオルタナティブの実践と理論に焦点を当てた特集を組みました。また現在のPARCの活動の柱であり、09年秋に開催されたアジア連帯経済フォーラムに先駆けた特集を組みました。またそのフォローアップ号として、09年春に特別号として「連帯経済フォーラム報告」号を発行予定です（5月10日発行予定）。

○連帯経済（09年3/4月号）

○社会的企業—地域・仕事・連帯社会をつくる（10年1/2月号）

○居住革命!—反富裕・DIY・スクワット（09年5/6月号）



<時代の大転換点を読み説く>

1989年11月の「ベルリンの壁」崩壊から20年の変化を象徴する諸地域にフォーカスしつつ、それらの相互関係から世界情勢を読み解く特集を企画しました。また大きな時代の流れの中で大国となった中国への目線を問い直す特集も組みました。

○1989→自由と民主化の神話（09年11/12月号）

○中華世界—21世紀の転換点（09年9/10月号）

3) 制作・販売面

2008年の隔月刊化に伴い、都内を中心に書店営業を強化し、地方小出版流通センター経由での書店配本の割合を増やしてきました。1号ごとのチラシを書店、映画館、劇場、カフェ、ショップ、クラブなどに配布し、リニューアルを印象づけ、知名度の向上に努めてきましたが、社会全体の出版不況の中にあり、購読者獲得・バックナンバーの売り上げともに苦戦している状態です。また雑誌『オルタ』に限らず、現時点で PARC では広報・営業の担当者を置いていないため、ターゲット層を絞った効果的な宣伝ができていないということも理由のひとつです。

一方で、20代から30代の社会問題に関心を持つ層を対象に地道に営業活動をかけながら、購読部数を確保してい

く営業活動が課題となります。ネットでの口コミの評価が大きく売上を左右する状況があり、会員の皆様にもぜひ宣伝でご協力いただきたく、また拡販方法についての積極的な提言をいただければ幸いです。

★オルタ購読者数の推移の表 入る

★オルタバックナンバー売り上げの表 入る

情報発信・ウェブサイト



★<http://en.parc-jp.org:8080/en/>

現在、PARCの情報発信は雑誌『オルタ』やオーディオ・ビジュアル (AV) 作品などを中心に、会員 ML やウェブサイトなど多岐にわたっています。すでにウェブサイトからの受講申し込み、商品購入は全体の7割強になっていますが、特にこの数年でウェブサイトからのボランティア・インターン希望や会員入会者数も増えています。

こうした状況から、ウェブサイトからの各種情報の迅速な発信を心がけてきました。また2010年度の課題にもな

りますが、会員 ML の活用方法の改善（海外の情報や報告などをさらに強化）や、新たなメディアとしてのツイッターの活用なども視野に入れています。

英文発信については、長年の課題となっていますが、今年度は「アジア連帯経済フォーラム」を開催するにあたり日本国内の実践事例を英語にして海外発信することも多くあり、フォーラムのウェブサイトと PARC のサイトの相互リンクを行なってきました。また、オーディオ・ビジュアル部門では、今年度制作した2本の作品の英語版を制作しました。こうした作品をアジアの研究者やジャーナリスト、漁民・農民団体や NGO などに発信することで、国際的なネットワークを構築していきたいと計画していますが、今年度は十分な発信（具体的にはメール送信や海外メディアへのプレスリリースなど）ができておらず今後の課題として残ります。中期的な計画ですが、会員の皆さんの関係する海外団体・個人などのネットワークを活かす形で、PARCの海外発信を強化していきたいと考えています。

オーディオ・ヴィジュアル(AV)

1) 全体を振り返って

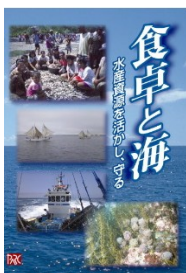
2009 年度は『食卓と海—水産資源を活かし、守る』とその英語版『Sustainable Fisheries –The Japanese Experience』、『海と森と里と—つながりの中に生きる』の3点のビデオを制作しました。オリジナルビデオを年間に2本制作するという目標を達成できたとともに、PARCとして初めての英語版作品を完成させることができました。

いずれの作品もグローバリズム研究の一環としての「水産資源（さかな）研究会」で得られた成果をもとに制作しました。『食卓と海』は、地球環境映像祭にてアース・ビジョン賞を受賞するなど評価も高く、他部門との連携を図り作品の質を高めるという計画を実現させることができました。

現在、PARCのAV作品の主要な視聴者は大学生・高校生ですが、今後は小～中学生向けの作品づくりも視野に入れることも計画しています。今年度は低年齢層を対象にした作品は制作できず、来年度以降の課題となっています。また、世界の優れたドキュメンタリー作品や教材を翻訳し、「世界の現実」シリーズとして販売することや、購買層である学校教員の方々との連携を深めることも、特に来年度以降に重点化すべき課題となっています。

2) 2009 年度に制作したビデオ作品とその内容

食卓と海 —水産資源を活かし、守る—



PARCの水産資源研究会が調査した、コミュニティによる水産資源管理・海洋環境保全の事例をまとめました。水産資源の枯渇が世界的に懸念されている現在、海辺の慣習や漁業権に基づく資源管理が持続可能な漁業にとって有効であることを伝えるビデオです。

地方新聞で紹介されたため、学校や図書館だけでなく、各地の行政の資源管理や水産振興に関わる部署から注文がありました。資源管理の現場で見ただけの作品をつくれたことは、AV部門だけでなく、調査研究部門にとっても大きな成果となりました。

Sustainable Fisheries

—The Japanese Experience—

『食卓と海』の英語版です。特に水産資源の枯渇が深刻なアジアの国々で活用していただくことを目指し、慣習による日本独自の漁業権と、漁業権に基づいて資源を管理する漁業共同組合の取り組みを紹介しました。

PARCで初めての英語作品を制作できたことは大きな成果ですが、広報が課題です。会員のみなさんのお力もお借りしながら、国際的に発信していきたいと考えています。

海と森と里と —つながりの中に生きる—



経済発展を重視する戦後の「開発」によって自然の循環の仕組みが壊され、一次産業が変えられてきたこと、及びその影響を追った作品です。水産資源研究会が調査した気仙沼の事例を深めることによって完成しました。

過去の自由学校講師や、『オルタ』で取材した方など、これまでの蓄積を活かして制作、部門間の連携を実現することができました。一方、取材内容が林業・農業・漁業・ダムなど多岐に及んだため、初期段階での取材・構成が甘く、制作に時間がかかりました。今後は、教材として内容の質を保証していくためにも、総合的に作品の内容を監修していただく専門家とともに、コンセプトについての十分な議論と綿密な調査を行ないながら、作品化を進めていくことが鍵となります。

3) 宣伝・販売状況

2009 年度は、映像祭への出品、Webからのダウンロードシステムの活用など、一部目標は達成できましたが、新たな販売拡大に取り組みませんでした。特に、大手書店の新規開拓、発送名簿の拡大は課題として残っています。

しかし、コンスタントに作品を発表できたため、昨年度よりも売上げを伸ばすことができました（別紙資料参照）。定期的に作品を制作し発表すること、宣伝を拡大することとの両立が新たな課題です。

◆参考資料 ビデオ作品売上と購入者

■2009年度 注文数 (のべ)

	計	一般(個人)	書店	PARC/ パルシック会員
単品	781	328	423	30
セット	101	44	54	0

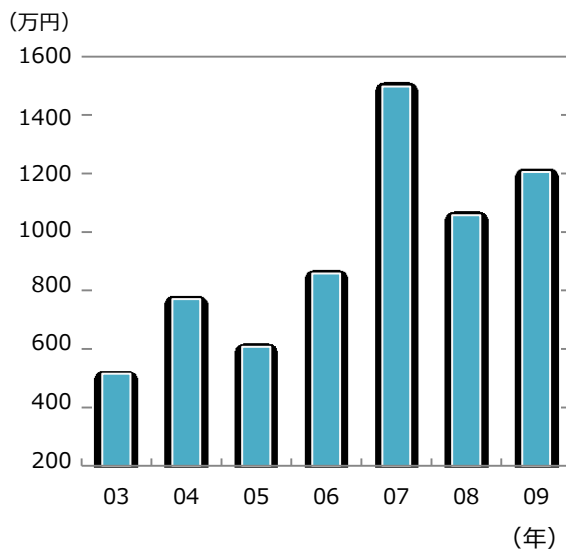
■2009年度 単品ベスト5

	作品名(制作年)	売上本数(本)
1	パームオイル (2009)	104
2	食卓と海 (2009)	100
3	バイオ燃料 (2008)	50
4	食べるためのマグロ、 売るためのマグロ (2007)	48
5	海と森と里と (2010)	47

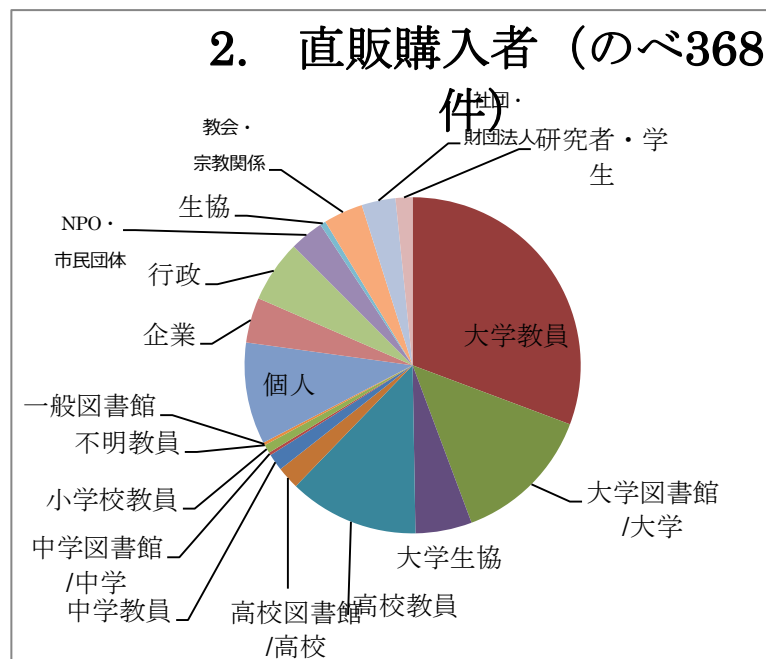
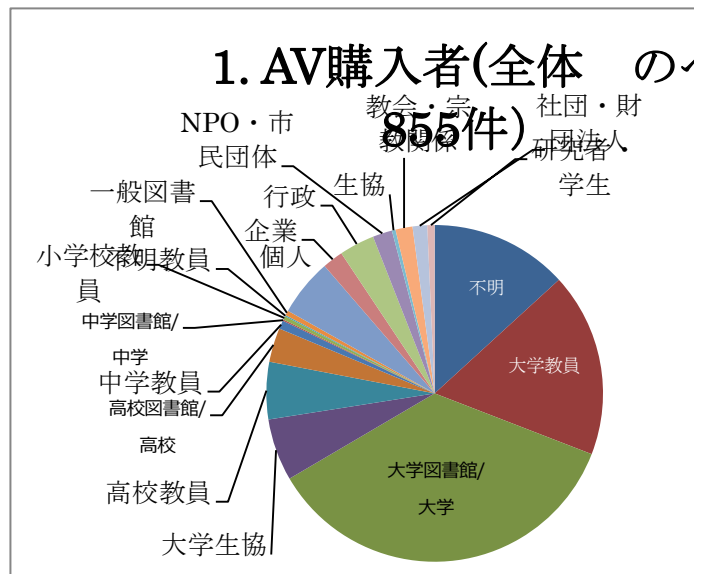
■2009年度 セット ベスト5

	セット名	販売セット数
1	新作DVDセット	21
2	世界の子どもたちは今	14
3	女性の視点から見る開発	13
4	全巻セット	12
5	モノから見える南北関係	10

■2003~2009年度のAV部門売上推移



■購入者の内訳



- ※ 個人は、漁業者、農業者、ファシリテーターなど
- ※ 行政は各都道府県の教育センターや環境センター、水産課など
- ※ 企業は、花王やサラヤなど作品に関連する企業のほか、CSR部など
- ※ 社団・財団法人は JICA 図書館、自然環境研究センターなど

組 織

込み（広報）など多岐にわたります。また翻訳作業、テープライト、校正などの自宅作業や、休日のイベントでの仕事にも多くの方に参加していただいています。

ボランティアがきっかけで自由学校を受講される方がいたり、集会のお手伝いをしていただいたりと、ボランテ

1. 会員

2010年3月31日現在、568人の会員の皆様がPARCの活動を支えてくださっています。最近の傾向としては自由学校を窓口会員となるケースが増えていることや、ウェブサイトからの会員申込みも微増しています。

2009年度は組織分割後にPARCの活動をより充実させていくための過程にありました。その中で理事会・事務局では会員同士・会員と理事やスタッフとの顔の見える関係づくりに向けて何ができるかということを経営して議論してきました。2010年度の課題となりますが、具体的には、①会員メーリングリストにて、シンポジウムや活動の報告を迅速に流すなどして、会員への情報発信の質と速度を改善すること、②会員の皆さんに十分知られていないAV作品を視聴してもらい、議論する場を企画すること（2010年4月9日「魚魚魚映画祭」を開催）、③雑誌『オルタ』にて「会員紹介」コーナーを設けること、などを計画しています。

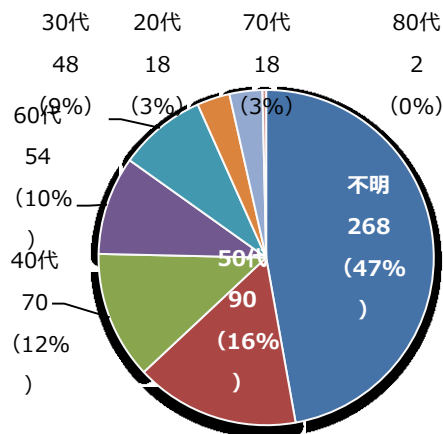
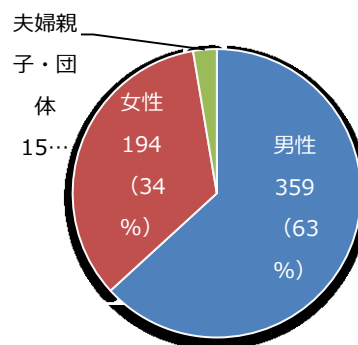
2. インターン・ボランティア

PARCの日常的な活動は、多くのボランティア・インターンの方々によって支えられています。特にこの数年で、インターネットの掲示板や各種メーリングリストからPARCを知り、ボランティアとして登録したいという方が増えています。こうした状況を受け、2009年度はボランティア・インターン制度の整備と充実に取り組みしました。

具体的には登録時のボランティアシートを使いやすい形に改善したり、初めて来た方にPARCの活動内容を理解していただくためのオリエンテーションの時間を設けました。また特に希望者の増える3月-5月にかけて、「ボランティア説明会」の実施を定例化しています。

ボランティアの方々をお願いする仕事は、『オルタ』やAV作品のチラシ、自由学校のパンフレットの発送作業、データ入力、商品発送、資料整理、インターネットへの書

計 568 人（2010 年 3 月 末 日 現 在）



イベントではいつも多くのボランティアの皆さんに参加・ご協力いただいています(2009年11月、アジア連帯経済フォーラムにて)

ボランティア参加もPARCの活動を知る機会の一つとなっています。

インターンについては、短期長期ともに学生を中心に受け入れを行いました。長期インターン生には、ある程度責任のある作業をお願いするように心がけました。

今後も、継続してボランティア活動に参加していただくために、PARCで開催するイベントや集会などにも、積極的に来ていただけるよう声をかけていきたいと考えています。

3. 姉妹団体・パルシックとの協働

組織分割から2年目の2009年度は、各団体が活動をより充実させることを第一に考えた上で、下記のとおり具体的な連携・協力を行なってきました。

- ・イベントでの協力(グローバルフェスタ、アースディなど)
- ・報告会・集会などでの協力(パルシック:東ティモール・スリランカ報告会、PARC:連帯経済フォーラム、自由学校まつりなど)。主に広報、当日の出店、人員拠出などで協力
- ・自由学校での企画(パルシック講座「一杯の紅茶から見える世界」クラスなど)
- ・メーリングリストでの情報発信(集会案内など)
- ・オルタにてパルシックのインフォメーションコーナー設置
- ・ボランティア(PARCボランティアがフェアトレードにも興味がある場合、パルシックボランティアにも登録するなど)

こうした日常的な協力の他に、PARCが行ってきたグローバルリズム研究「水産資源(さかな)研究会」にて訪問・調査したマレーシアの漁民団体(マングローブ植林を行なう)の支援に向けた取り組みをパルシックが開始するなど、「調査・研究」と「具体的な現場支援」という協働・連携の芽が生まれました。今後は、それぞれの強みを活かして、例えば「グローバルな貿易の問題点」や「連帯経済」の事例や理論をPARCが調査研究として行ない、「貿易を公正にするための一つの取り組みとしてのフェアトレード」の実践をパルシックが行なうこと、そしてその両面を広く発

信していくことなど、多くの可能性があると考えています。

2010年3月には両団体の合同理事会を開催し、この2年間でそれぞれが取り組んできた活動の共有や、今後の連携や協力のあり方について議論をしました(今後も年2回ペースで開催予定)。

4. 事務局

2008年度の監査報告にて指摘を受けた項目について、理事会・事務局ではこの1年間、優先順位をつけながら活動の充実と組織の改善・整備を進めてきました。その中でも事務局スタッフの労働環境の整備の一環としての社会保険加入については、今年度は実現できず、2010年度の課題として残っています。

また、すでに2009年6月の会員総会および総会報告書にてご報告いたしましたが、2009年1月、事務局スタッフの一人が個人で加入できる労働組合に加入し、組合とPARC理事会との間で労働条件をめぐる団体交渉を行ないました。数回にわたる交渉の結果、2010年1月に当該スタッフとPARC理事会、労働組合の間で和解に達しました。

事務局スタッフの労働条件にかんしては、上記の社会保険加入を含め今後2-3年かけて整備していく計画ですが、その実現のためには持続的で安定した財源の確保が不可欠です。理事会としては会員の皆様からのご意見、具体的な活動への助力を得ながら、PARCの組織基盤を強くしていきたいと考えています。

ぜひ日常的にPARCの活動への率直で忌憚のないご意見をお寄せいただき、活動にご参加いただけるようお願いいたします。

2009年度 会計報告

■収支計算書 (2009年4月1日～2010年3月31日)

収入の部	金額 (円)	構成比 (%)	支出の部	金額(円)	構成比 (%)
【売上高】			給料手当	12,963,157	
会費	5,070,		雑給	333,590	
寄付金	84,25		法定福利費	147,982	
ビデオ売上	12,05		福利厚生費	1,049,952	
自由学校等講料	14,79		高価運賃送付費	105,420	
エクスポージャー参加費	1,445		広告宣伝費	42,141	
オルタ購読料	1,746		会議費	32,393	
オルタ売上	1,415		旅費交通費	946,788	
ブックレット売上	99,22		通信費	766,103	
雑収入	737,0		事務用消耗品費	857,871	
参加費	753,6		修繕費	47,674	
売上高合計		38,200	水道光熱費	632,550	
【売上原価】			新聞図書費	43,904	
期首商品棚卸高	10761		諸会費	116,000	
合計	10761		支払手数料	68,400	
期末商品棚卸高	12626		リース料	379,411	
商品売上原価		-186481	支払報酬	409,500	
当期製造原価	16849		地代家賃	4,920,300	
合計	1684		租税公課	83,000	
製品売上原価		1684948	雑費	193,855	
売上原価		1666300	電話代	23,918	
売上総利益金額		2153771	印刷費	206,756	
【販売管理費および一般管理			海外出張旅費	125,220	
販売管理費および一般管		2449588	一般管理費 合	24,495	
営業損失金額		2958173	雑給	428,200	
【営業外収益】			外注加工費	1,068,851	
受取利息	3336		高価運賃送付費	630,415	
雑収入	31515		旅費交通費	954,521	
営業外収益合計		318487	通信費	510	
【営業外費用】			賃借料	87,925	
支払利息	24493		印刷費	3,235,834	
雑損失	14004		講師料	3,619,045	
営業外費用合計		1424912	ビデオ制作費	2,980,071	
経営損失金額		4064598	原稿料	2,093,074	
税引前当期純損失全		4064598	オルタ制作費	231,688	
法人税等		70000	エクスポ経費	1,333,837	
当期純損失金額		4134598	材料費	185513	
前期繰越金					
		1816458			

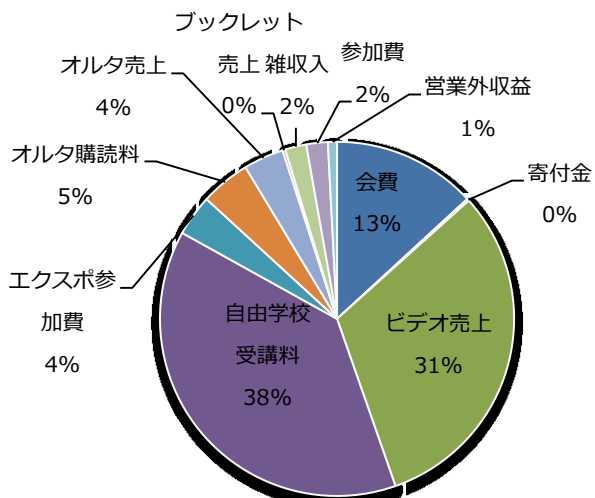


■ 貸借対照表 (2010年3月31日現在)

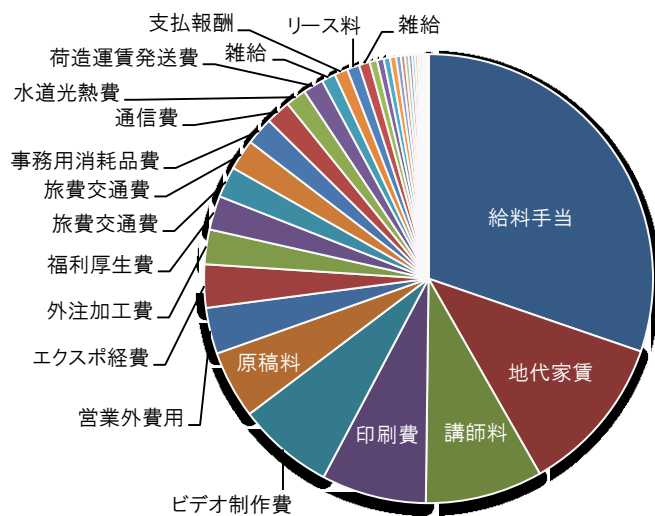
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	8,264,962	【流動負債】	10,281,420
現金・預金	4,034,333	短期借入金	2,400,000
ドル預金	292,748	未払金	1,922,194
ユーロ預金	27	預り金	963,234
受取手形	1,862,490	前受金	948,992
売掛金	812,732	自由学校前受金	4,047,000
商品	1,262,632		
【固定資産】	200,000		
出資金	200,000		
		負債の部 合計	10,281,420
		正味財産（純資産）の部	
		正味財産	-1,816,458
		正味財産の部 合計	-1,816,458
資産の部 合計	8,464,962	負債および正味財産合計	8,464,962

■ 収入と支出の内訳

■ 収入



■ 支出



活動カレンダー

◆2010 年度に PARC が賛同・主催／共催・協力したキャンペーン・講演会・イベントなどをご報告します

《講演会・イベント》		
4/23	連続セミナー「人々の生物多様性」：木材生産と先住民民族 ～生物多様性の宝庫サラワクの森から	主催：地球・人間環境フォーラム、 FoE Japan、メコン・ウォッチに協 力団体として参画
4/9	PARC ビデオまつり Vol.1 魚魚魚(ぎょぎょぎょ)映画祭 観て、語って、考えましょう！ 「食と環境～生物多様性を意識して～」	PARC 主催
4/17 18	アースデイ東京 2010	出展
4/25	沖縄に基地はいらない 全国同時アクション Tokyo ～キャンドルで人文字をつくろう！ @明治公園 NO BASE! OKINAWA	賛同団体として参加
5/21	ガザ虐殺を繰り返させないための院内集会	呼びかけ団体
6/2	アクティビストのための Twitter 講座！ 入門編	主催
6/6	ドキュメンタリー映画『ミツバチの羽音と地球の回転』東京上映会	大竹財団主催・PARC 共催
6/1	イスラエル軍によるガザへの支援物資輸送船団に対する襲撃事件の抗議(対イスラエル大 使館)	参加
6/14-15	東アジア社会的企業フォーラム(台湾)へ参加	
7/3	COP10 100 日前緊急イベント イサベラ・ロヴィーンさん来日シンポジウム 魚が食べられなくなる？～漁業と流通、消費を問い直す～	EU Studies Institute in Tokyo (EUSI)、持続可能なスウェーデン 協会、グリーンピース・ジャパン、 PARC
8/3	納涼！岡村淳さん上映会&トークライブ 講演会 Viva Yasuni!	主催 エクアドルの挑戦に学ぶ実行委員 会に参加
9/6	石油依存社会に対するアマゾンからの挑戦 日本は今、エクアドルから何を学べるのか？	
9/11	映画上映会+トーク エクアドルの石油開発と環境破壊を考える ドキュメンタリー映画『CRUDE』上映&トーク	主催
10/16	反貧困世直し大集会@明治公園	賛同団体として出展、分科会
11/27	国際有機農業映画祭 2010	実行委員会に参加
10/23-29	生物多様性条約第 10 回締約国会議(通称 COP10)	ブース出展等
10/22-24	アース・ビジョン 第 19 回地球環境映像祭 環境映像部門 第 1 次審査通過作品 上映会	PARC 作品が上映
11/18	シンポジウム DVD「近くて遠い、遠くて近い貧困問題」リリース記念 近くて遠い、遠くて近い貧困問題 ～ともに生きられる社会と経済を構想する～	主催
11/13	講演会 祝島をとりまく自然と伝統文化 ～神舞・練堀、そして危機に瀕する生物多様性の海を未来へ	大竹財団主催・PARC 共催
11/3	CANTA! TIMOR ～東ティモールからの平和の歌～☆映画上映会&ライブコンサート	パルシックとの共催
11/22-24	東京・日韓社会的企業セミナー	実行委員団体として参画
12/1	対話集会ブラジルの NGO の実践から学ぶ「貧困をなくすために～農村における NGO の 役割」	主催
11～12月	Stop!無印良品アクション(Web 署名/店舗前行動)	実行委員団体として参画
12/4	PARC 会員の集い&忘年会	主催
12/3	PARC 自由学校「世界を動かしたスピーチから英語を学ぼう！」クラス受講生有志による スピーチ発表会「世界を変えるのは、私たち(のはず)だ！」スピーチ発表会!	主催
12/7	モラレス大統領来日・市民集会「地球は売り物ではない！ポリビアからの提案」	主催団体として参画
12/17	「STOP したよ!! 無印良品」報告集会	実行委員団体として参画
2/26	当たり前に生きたい、ムラでも、マチでもー T P P に反対する人々の運動」 2. 2 6 「T P P では生きられない! 座談会」	実行委員団体として参画
3/27	PARC 自由学校「活動家一丁あがり！」 単行本出版記念&2011 年度受講生大募集イベント	主催団体として参画
1月	緊急アクション：農林水産省パブリックコメント「遺伝子組換えサイズの第一種使用等 に関する承認に先立っての意見・情報の募集」にあなたのメッセージを!	主催
2/26-27	オーガニックショー ボランひろば東京 2011	パルシックと共同でブース出展

理事／事務局スタッフ紹介と会員の皆様へのメッセージ

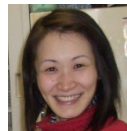
3/12	2010年度PARC自由学校修了イベント「自由学校まつり」	主催
3/13	反貧困大集会@あいち 「反貧困TV」	主催団体として参画

■ 代表理事



細川弘明 (ほそかわ・こうめい)

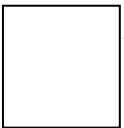
オーストラリア先住民(アボリジニ)の土地権運動、環境知識などについて25年ほどフィールドワークを続けています。その前は青年海外協力隊でボリビアにいました。ウラン採掘反対運動に参加したのをきっかけに、開発批判、資源エネルギー論、先住民復権など、色んな活動に首を突っ込んでます。大学では現場主義的リサーチに学生を巻き込もうとあの手この手……。



普川容子 (ふかわ・ようこ)

OLとNGOの二足のわらじをはいていましたが、途上の債務問題にはまってNGO一本の道に。事務局スタッフ兼理事でしたが、現在育休中です。PARCには、自由学校・AV・オルタと他のNGOにはない、情報発信のツールと「場」を持っています。その中身をつくる活動にぜひ会員の皆様もご参加ください。

■ 理事



内田聖子 (うちだ・しょうこ) (事務局長)

気がつくと今年でPARCに10年。立ち止まることなく、いつでも走りながら考える…壁にぶつかっても人に助けられながら生かされる…それがPARCのよき文化だと思います。2010年は日本とアジアの「連帯経済」の広がりに全力を尽くしたいと思います。それとなぜかこの場をお借りして「わたしが変わる」の第一歩・禁煙宣言!(2010年Xデーより)



大江正章 (おおえ・ただあき)

コモンズという限りなくNPOに近い零細出版社を悪戦苦闘しながら経営(?)しつつ、農や食や地域に関するルポを書いています。パルクとは『オルタ』の編集委員でかわりはじめ、ずばずばと深入りしてきました。最近では自由学校で生徒さんの人生を変えることが快感です。



菅野芳秀 (かの・よしひで)

山形の百姓です。水田と自然養鶏との循環農業を息子と二人でやっています。パルクの理事になりました。2年間で。凋落する産業としての農業をどう守るか、ではなく、「時代を拓く農」を主張し、地域-アジアに創造的にかかわって行きたいと思い、やってきました。パルクの理事としてどんなことができるのかなんて重く考えずかーくやっつけていこうと思います。会員としては30年になります。でもね…酒を飲むことだけが上手になってさ…、60歳。年寄りだなぁなんて思うううよなぁ。これでも村に帰れば若手のホープなんだからよお。



小池洋一 (こいけ・よういち)

日本の政治、経済は混迷をきわめています。日本のラテンアメリカ化とか、格差の拡大に関連して日本のブラジル化などと言う人もいますが、ラテンアメリカ、ブラジルはともに、社会がかかえる問題を解決しようと懸命な努力をしています。参加型予算、連帯経済、企業の社会的貢献などがそれです。そこで最近では、日本がラテンアメリカ、ブラジルから学ぶという意味で、少し手前味噌ですが、日本のラテンアメリカ化、ブラジル化(の必



穂坂光彦 (ほさか・みつひこ)

かつて海外の援助機関で働く傍ら「世界から」を購読し、オルタな情報に基づいて民衆の視点で考えることを知りました。世界の構図は変わりましたが、アジアのスラム居住者の新しい動きを追い、日本社会との通底する課題、相互に学ぼうの試み、を探っています。



佐久間智子 (さくま・ともこ)

今はフリーで世界の食料や水の問題について翻訳・著述活動していますが、かつてNGOスタッフだったこともあり、心情的には事務局に近いかもしれません。これからはPARCという社会の財産(?)を共に支え、共に有効活用していきましょう。どうぞよろしく。



湯浅 誠 (ゆあさ・まこと)

「世界の貧困」と「日本の貧困」をつなげたい!という事で、昨年から理事をやらせてもらっています。昨年度は「活動家一丁あがり講座」を行い、生きづらさを感じる若者たちが声をあげるためのお手伝いを始めました。また、今年は「日本の貧困」をテーマにしたPARCビデオも作成する予定です。なかなか予定が合わず、理事会出席率は必ずしも高くないので恐縮!ですが、今後ともよろしく願います。

■ 事務局スタッフ



京野楽弥子 (きょうの・さやこ) /PARC自由学校担当

自由学校を通して、「もっと知りたい→動きたい→つながって自分の足元から変えていきたい」と受講生の方がたが思ってくれたらいいなあ~と思っています。会員の皆さんに「こんな自由学校があったらいいのでは?」と気軽に教えてもらえたら!と願っています。



小池菜採 (こいけ・なつみ) /オーディオ・ヴィジュアル(AV)担当

取材や調査で、知らないことを知るたびに自分の思い込みがひっくり返ってわくわくします。そんなわくわくを提供する作品を作りたいと思っています。一方的に情報を利用するのではなく、そこから関係を紡いでいく取材を目指し、カメラと三脚をしょってあちこちに出発中。



高橋真理 (たかはし・まり) / 総務・経理担当

ひよんなことで2008年よりPARCに関わらせていただくことになりました。毎日が勉強の日々です。会員の皆さまと、オルタナティブな社会や生き方を、模索構築していけたらと思っています。今年から自主サークルPARC ガーデニング部を立ち上げ、家庭内食料自給率アップを目指します。



田中 滋 (たなか・しげる) / 雑誌『オルタ』担当

2010年4月よりPARCのスタッフに仲間入りしました。あだ名は中学の頃から「ゲル」と呼ばれ続けて十数年。皆さんもお気軽に「ゲル」とお呼び下さい。まだまだ勉強することだけですが、よりよい「オルタ」のために頑張っていきます。気づいたことは何でも気軽にお願い下さい！

2010 年度を振り返って

【全体】

- アクション・イベント
- 調査研究・ネットワーク：
連帯経済（社会的企業研究会への参加、国際会議への参加）
- メディア戦略 UST、ツイッター
- 資料アーカイブ化（AMPO、PP21、立教大学との連携）

【部門】

- 自由学校
- オルタ
- AV

【組織】

●**会員**

●**ボランティア・インターン**

2011 年度の活動

●**「ともに生きられる経済・社会を提案する」**

①**研究会の実施と連帯経済、社会的経済の現場調査⇒調査結果をオルタ・英文ウェブで発信**

②**反 TPP 運動への参画**

③**国内の反貧困運動とのつながり**

④